

2025年度（令和7年度）事業報告

保育所 あなみ保育園

1 施設を取り巻く現状と課題

（1）事業の種類及び利用定員

保育事業 定員60名（あなみ保育園）

平均利用人数：

（2）県市町村からの受託、補助事業等

延長保育事業 評価：実績年間平均4名

一時保育事業 評価：利用実績3名 1件入所につながっている。

（3）施設における公益的な取り組み

グラウンド開放（月1回） 月平均利用人数： 11月に雨のため、2月に雪の為に中止。

共生型子ども食堂（月1回） 月平均利用人数：50名

（4）運営方針

令和7年度は令和6年度に引き続き「整理・整頓」をキーワードに、取り組みました。

運営面として、計画通り0、1、2歳児の確保はできましたが、全体の入所人数は55名と定員を5名満たしていない状況であり、そのため収入も前年度よりは上がっているものの、運営としては厳しい状況でした。

保育の強化として、ホールの照明器具の入れ替えを行いました。また、消防の立ち入り検査による指摘があり、エレベーター室と園舎の切り離し工事を予算変更し行いました。

職員の資質向上として、マニュアルについて見直しを行いましたが、曖昧な判断のまま業務をしていることがあったため、迷ったら見直す習慣を身に付けていけるよう今後も取り組んでいきます。

また、絵本についての研究は、職員一人ひとりが毎月3冊の紹介と、他職員の紹介したものから1冊読んでみた感想を記述する取り組みを行い、絵本の知識が広がり、保育に活かすことが出来ました。

業務の効率化を目指し、物の地図の完成に向けて取り組み、完成させることが出来ました。育成指針（職務基準書）の見直しはできていないので、育成に係るより具体的な指針の作成を今後進めていきます。

2 施設の実施施策と取り組みの方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる組織づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	インスタグラムの運用 (達成率90%)
現状と課題	実際の保育の様子を多方面に伝えることが出来ている。保護者にも安心していただけているため、引き続き取り組みたい。
取り組み方向性	保育の様子を公開することで、保護者も含めてあなみ保育園の保育の良さのアピールの継続に取り組む。また、保護者の安心に繋げ、理解を得ることで職員の心理的安全にも繋げたい。
取り組み成果	投稿数：46。人事・広報課との協力もあり、より園児の様子がわかるクオリティになっているが、昨年に比べ、投稿回数が減っている。グランド開放や、入所を決める参考にもなっているため、コンスタントに投稿できるよう広報課との連携、組織内での仕組みづくりを今後取り組む。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	行事の見直しを通して保育運営を学び直す。 (達成率80%)
現状と課題	行事委員会が出来たことで、行事の目的（ねらい）の理解が進み、伝達についてもラインワークスを利用することでスムーズにできている。しかし行事を行うことが目的となっていて保育運営と結びついていないクラスや、行事の担当によっては責任意識の不足が見られた。
取り組み方向性	子ども家庭庁による「こどもまんなか施策」より、子どもの発達を踏まえた保育運営を計画していき、日々の保育から行事につながるように取り組む。定期的に職員会議で振り返りを行う。
取り組み成果	年間の行事の流れを変えたことで、今年度は目的の共有、役割の分担、情報の共有は出来ていたものの、中身をじっくりと考えることが出来ていない。スケジューリングも含めて、時代に合った構造化、マニュアル化が必要と考える。また、OJT としてはあなみ保育園の保育からの行事という考え方が浸透していない。この部分の改善が今後必要と考える。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	保育方針の理解を深める (達成率 80%)
現状と課題	保育方針の変更を全職員で話し合い取り組むことができ、あなみ保育園の保育者像も作ることができたが、職員によって温度差がある。定着不足
取り組み方向性	新しい保育方針を再度職員自身に照らし合わせ共に考えることにより目指す子ども像を共有し、共に育ちあえる職場風土を作りの継続に取り組む。
取り組み成果	保育方針を言える職員、意識して取り組む姿勢にはなってきたが、子ども理解を含めて保育に反映させるところまでは部分的にできていない。目指す子ども像の共通理解と、子ども個々に合わせた取り組みが職員同

	士話し合うことでより深めるための取り組みが今後必要である。
--	-------------------------------

実施施策	歩数計を利用して健康意識を高める（健康経営の取り組み） (達成率30%)
現状と課題	健康経営への取り組みとして具体的な取り組みがなされていない。
取り組み方向性	歩数計を利用し月ごとに一番多く歩いた方を表彰する取り組みを行う。 そういったことで職員の健康への意識の向上と、全職員共通の目標が出来、チームワークの強化にも繋げたい。
取り組み成果	具体的な取り組みが実施できていないが、衛生委員会の啓発や測定会への参加様で健康意識の高まりは職員間の会話に表れている。次年度に継続し、取り組む。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	ノンコンタクトタイムの確保（達成率100%）
現状と課題	土曜保育の時など園児の当園が少なくなる日に計画的にノンコンタクトタイムを確保することができたが、今後も継続が必要である。
取り組み方向性	書類制作時間の確保を確実にを行うために勤務表作成時に計画を入れる。 合わせて土曜保育時に合同保育を行い、時間の有効活用に取り組む。 書類の整理を行い不必要な物は無くしていく。（継続）
取り組み成果	職員数の関係で、平日にノンコンタクトタイムを確保することはできなかったが、土曜保育時に時間を確保することが出来たので、書類の遅れはなかった。

実施施策	計画的年休取得の継続（達成率25%）
現状と課題	年10日年休取得を計画的に出来ている。
取り組み方向性	今年度も計画的に取得をしていき、リフレッシュすることで保育の充実を図る。（継続）
取り組み成果	目標日数の10日取得には届いていないので、計画的にバケーション休暇をとれるように次年度からは取り組みたい。

(2) 利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	発達指標を使った保育活動を行う。（達成率10%）
現状と課題	本園独自の発達指標表を保育計画に使用できていない。
取り組み方向性	発達指標を保育計画で使用し、子どもの発達に沿った保育活動の実践に取り組む。そうすることで発達についての理解を深めていく。
取り組み成果	発達の理解が出来ていないこともないが、取り組みとして実施できていないため、具体的な取り組み方法を次年度考え、取り組みたい。

実施施策	各種マニュアルの見直し（達成率50%）
現状と課題	マニュアルの周知は職員へマニュアルを配布することで見直す環境はできたが、周知の徹底まで至っていない。
取り組み方向性	職員会議での読み合わせを行い、周知の徹底を図る。また、見直しも行う。（継続）
取り組み成果	マニュアルを配布したことで、見直す機会はできていると思う。迷ったら確認の習慣を今後は付けていきたい。

イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	共感力の向上・Iメッセージでの語りかけの習得（達成率80%）
現状と課題	職員手帳の読み解きから各職員自身の振り返りを行うことはできたが、実際にどのような言葉がけが子どもにとってわかりやすく寄り添う言葉になるのか知りたいと意見が上がった。
取り組み方向性	園内研修で具体的な場面での言葉がけの研修を行う。また、日々の中で、実践をしていき、職員同士で認めあうように取り組む。
取り組み成果	「保育のこころえ」を今年度は読み保育者としてのこころえとして共感力、丁寧な語り掛けは必須であることは理解できていると思う。しかし、とらえ方の温度差があるため引き続き学ぶことで、意識していける環境は必要と考えるため次年度も継続して取り組む。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	グラウンド開放・共生型子ども食堂の実施（達成率100%）
現状と課題	月1回の開催に取り組んでいる。現状グラウンド開放は職員1名で対応しているので、対応に限りがある。 いこいのキッチンについては保育園ならではの献立のアピール不足を感じる。
取り組み方向性	引き続き継続できるように補助金や、寄付など受ける。SNSや市報など広報し、広く知っていただく。また、対応職員を増やし、グラウンド開放時に来場していただいた方の子育て相談や、当園の職員を知っていただく機会にし、地域とのつながりにつなげたい。 いこいのキッチンは保育園の給食メニューを献立にいれ、給食としても地域に知っていただく機会にしたい。
取り組み成果	グラウンド開放の実施は11月、2月に天候不良のため中止をしたのみで、取り組むことが出来ている。予定していた保育者の参加が出来ていないので、取り組み方法を次年度考えたい。 子ども食堂は毎回50食の提供が出来た。子どもたちも楽しみにしていると声が聞かれている。また、株式会社キチセさんからのデザートへの寄贈、認定NPO法人むすびえを通しての各企業からの寄付、畜産協会の寄付などがあり、運営についても安定して取り組むことが出来た。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	園児の確保に向けた方向活動 (達成率70%)
現状と課題	庄内町の過疎化による人口減少が進み園児の確保が難しい状況がある。
取り組み方向性	低年齢児も送迎対象とし、待機児童の出ている挟間地区の児童が入園に繋がるよう働きかける。(ニーズの整理)
取り組み成果	今年度も通園バスの利用者がおらず、運行していないが、口コミやSNSを通じて園児の確保(2名)が出来ている。次年度も引き続き取り組み、園児の確保に努めたい。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	園舎内の修繕を行い、安全な環境を整える。(達成率100%)
現状と課題	ホールの照明機器についての危険報告が取扱業者から連絡があった。3歳児保育室の床のささくれがあり、園児の怪我につながっている。そのため、園児の安全にかかわる修繕箇所が経年劣化により出てきている。
取り組み方向性	ホールの照明機器の交換、3歳児保育室の床面の張替えを行う。 その他、経年劣化により安全確保が必要なものについては優先順位を付け対応を行う。
取り組み成果	予算変更のため、3歳児クラスの床の張替えは実施を見送った。ホールの照明、エレベーター室との切り離し工事を行い、保育環境、防災についての安全は改善することが出来た。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	業務マニュアルの実用化と見直しを行い自ら判断できるようになる。 (達成率80%)
現状と課題	マニュアルの周知、徹底不足の面が伺えた。
取り組み方向性	職員会議等でマニュアルの確認を行い、見直しを行い、見直し点の書き換えを担当者がすることで見るだけでなくかかわってもらう。そういった取り組みから学びの機会とし周知徹底につなげる。
取り組み成果	業務マニュアルの見直しはその都度行い、変更点は周知を行ったが、徹底までに至っていないため、引き続き見直し、確認を行い、迷ったらマニュアルを確認するように取り組む。

3 実績利用率

(%)

事業名	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用率利用 率/月
保育事業 (実績利用人数分)	60名	62%	67%	70%	70%	64%	75%	72%	67%	74%	76%	71%	76%	70.3%
在籍人数分	60名	73%	80%	80%	83%	88%	88%	90%	90%	90%	92%	92%	92%	86.5%

4 固定資産物品購入物

(単位：千円)

名 称	購入業者	執行額	購入日
投光器	西日本ワンダー(株)	1 6 0	令和7年8月5日

5 修繕実施状況（大規模修繕を除く）

(単位：千円)

名 称	請負業者	執行額	完了日
ホール照明取り換え工事	鬼塚電機(株)	7 0 4	令和8年1月24日
エレベーター室園舎切り離し工事	熊野建設(株)	5 3 3. 5	令和8年3月31日

6 大規模修繕実施状況

(単位：千円)

名 称	請負業者	執行額	完了日
無し			